



県感染拡大特別警報を発令し、県内の感染状況などを説明する杉本知事。9日、県庁で

検査に優先順位

新型コロナウイルスの感染急拡大を受け、県は9日、独自の警戒レベルを「特別警報」に引き上げた。期間は「11日まで」。一律に実施していた濃厚接触者の検査方針を改め、高齢者の重症化リスクの高い人を優先するなどし、医療逼迫の回避を目指す。
—新型コロナ関連の①面

(山本洋児)
県新型コロナウイルス感染症対策本部会議が9日、県庁であり、杉本達治知事が決定した。県が同日発表した新規感染者は、前日7人。県内は9日連続で三百人を超えた。特別警報による影響上げは昨年8月30日以来となり、感染「第六波」では初めて。

直近の感染経路は家庭内が五割、学校・保育園が二つなげ、重症化を防ぐ狙い

を切める。会議後、杉本知事は「さすがに感染者が広がる様相が見られる。家庭と学校でいかにして『外から持ち込まない』『外に広げない』を徹底できるか。「今」で抑えられるもう努力していく」と述べた。

新たな対策として、隣接されている濃厚接触者らの検査に優先順位を付ける。県内は現在、一日五百一十六人の濃厚接触者が確認され、一律の対応では検査までに時間を要する。検査スピードを上げて早期治療につなげ、重症化を防ぐ狙い

県特別警報引き上げ

新型コロナ 9日連続300人超

がある。優先的に検査する人は高齢者と基礎疾患のある人、有症状者、無症状者でも希望があれば検査を実施する。希望すれば検査を実施する。

施する。学校ではクラスメートに陽性者が見つかった場合、クラス全員を検査していたが、濃厚接触者と体温不調不快を感じる児童生徒、同居家族に高齢者がいる児童生徒に較る。

家庭内の対策強化では、

歓送迎会シーズンを意識して施す。学校ではクラスメートに陽性者が見つかった場合、クラス全員を検査していたが、濃厚接触者と体温不調不快を感じる児童生徒、同居家族に高齢者がいる児童生徒に較る。

第一回の「警報」延長を認めていた。杉本知事は病床使用率などを踏まえ、また延長を認めた。県は飲食も控えてもらう。家族が体調不良の場合は出勤・登校を見合わせなどの行動制限も求めた。

第六波での警戒レベルを

福井県独自の 感染評価指標	県内(3月9日)	レベル1	レベル2	レベル3		
		注意報	警報	特別警報		
医療体制	確保病床数(441床)の占有率	27.4%(121床)	20%程度(85~95床)	30%程度(130~140床)	40%程度(170~180床)	50%以上(221床)
	うちICU確保病床数(24床)の占有率	12.5%(3床)	20%程度(5床)	30%程度(7床)	40%程度(10床)	50%以上(12床)
感染状況	直近1週間の新規感染者数(人口10万人当たり)	2662人(346.6人)	おおむね70~80人(10人)	おおむね110~120人(15人)	おおむね150~160人(20人)	192人以上(25人)